

## はばたくなら ②④⑦

いいな したいな やってみよう

～子どもも保育士も心が動く環境づくり～

## 取組について

■園には医療的ケアや特別な支援が必要な子、いろいろな国のルーツをもち文化が違うなど様々な背景をもつ子どもたちが通っている。個性豊かな子どもたちも多く保育や保護者対応に多様性が求められている。また子どもたちの実態として受け身が多く、自発的に遊ばない、挑戦したり最後までやってみようとするのが少ないなどがあった。一人一人が心が動かされる経験が少ないのではと考え、保育の見直しを行った。また保育士主体の保育になってしまう現状があり、子ども主体の保育へ意識を変えていきたいと考え、園内研修を充実させることにした。

■子ども主体の保育を進めていくうえで、一人一人が楽しいと感じ「やってみよう」「やってみよう」と思えるような遊びの充実が大切だと考えた。そこで子どもの興味関心を捉え、子ども理解を深めるためにわくワークシートを活用しながら保育の振り返りを行うことにした。遊びを通して「主体性を育む」ことにつながるよう、物的環境、人的環境を整えていくうえで、まず保育士自身がわくわくすることが大切だと考えた。園内研修を通して保育士同士がつながり、高め合っていける環境づくりを目指したい。

## この取組を通して…

○子どもたちは大人のように自分の思いや考えを上手く表現できない。私たちは遊びの振り返りや読み取りを行う中で子どもの表情、行動、つぶやきから感じていることを想像している。子どもと同じ目線に並ぶことが大切であり、そこから子ども理解につながると感じた。子どもを理解しようとする姿勢を保育所全体で大切にしていきたい。

○保育を振り返りながらどのような育ちにつながっているか、環境はどうだったかなど意見交流をし、子ども理解を深める場として園内研修を行っている。はじめは、コロナ禍での保育しか経験がない保育士が、制限なくのびのびと遊ぶ環境がイメージできないなど意見が少ないことが課題であった。安心して自分の意見を出せるよう職員同士のコミュニケーションを大切にしている。また時間や内容を工夫し、全ての職員が気軽に多様な意見を出せるような雰囲気づくりを目指している。

○保育の振り返りで子どもの興味関心を職員間で共有することができ、環境を準備する上で様々なアイデアを出し合えるようになってきた。また、担任以外の保育士も参加することで違う視点で子どもを見ることができ、それまで気づいていなかった子どもの内面や育ちを知ることにつながっている。

# 実践事例①

# 園内研修会

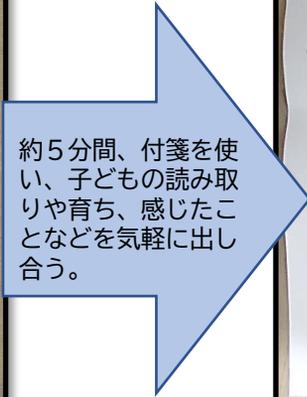
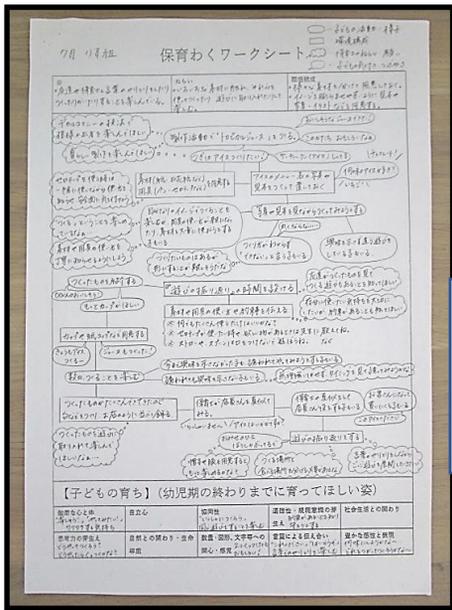
子ども主体の保育を進めていくうえで、まずは子ども理解を深めることが必要だと考えた。日々の保育を丁寧に振り返りながら子どもの興味関心を捉えたり、子どもの行動やつがやきからその背景や成長を読み取るために、わくワークシートを活用することにした。

## ねらい（わくワークシートの活用）

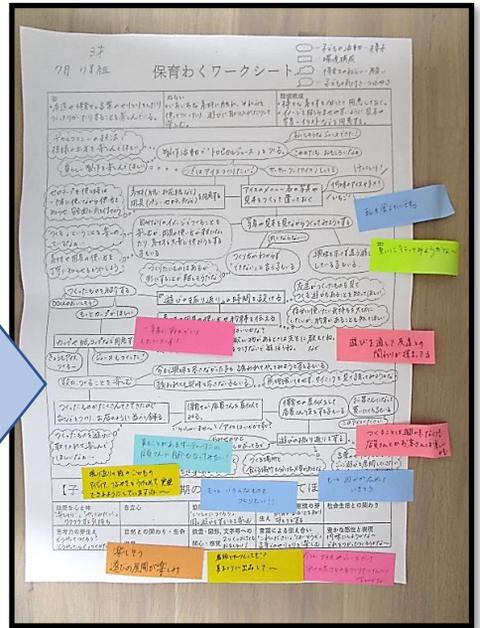
- 各クラスの現状、子どもの興味関心を共有し、保育所全体でチームとして子どもたちを見守り、育ちにつなげていく。
- 遊びからどのような育ちにつながっているのかを読み取り、多様な視点をもつ。
- 保育士同士がつながり、保育士自身が好奇心、探求心をもつ。

## 取り組み

- 付箋の活用（子どもの読み取り）
- 子どもの興味関心の共有
- 課題や悩みについて意見交流



約5分間、付箋を使い、子どもの読み取りや育ち、感じたことなどを気軽に出し合う。

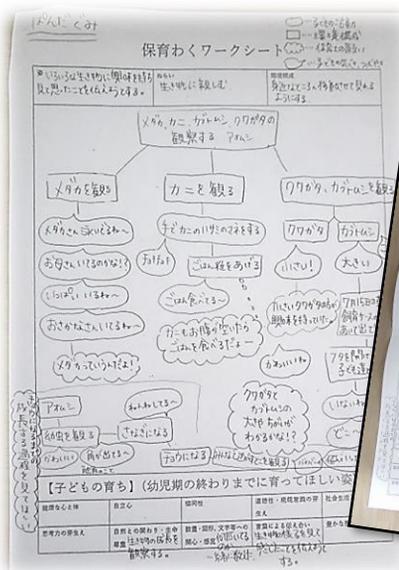


## 見えてきた課題

- ◆経験年数が浅い保育士が増え、自分の意見に自信がもてず、発言が少なく意見交流が難しかった。
- ◆コロナ禍での制限が多かった保育しか経験がない保育士は「子ども主体の保育」がイメージ出来ない。
- ◆保育士自身が子どもとの関わりや保育を楽しめる体制と環境づくり。
- ◆全ての職員が気軽に多様な意見を出せる人間関係と雰囲気づくり。

## 2歳児「小動物とのふれあい」

様々な生き物に親しんでほしいというねらいから、メダカやカニ、クワガタ、カブトムシ、アオムシなどの小動物を部屋で飼育し、観察したり、触れたりできるようにしてきた。餌を食べたり、動いたりする様子、また変化していく様子を見ながら興味をもつようになり、感じたこと、気付いたことを言葉に出して表現しようとする姿が見られるようになった。子どもたちのつばやきを大切にし、より生き物を身近に感じながら興味関心を深めていけるよう環境を工夫していった。



およいでるね～（メダカ）  
おかあさんしてるのかなぁ・・・

（クワガタを見て）  
ちいさいね。かわいいね。

（カブトムシを見て）  
おおきいな！こわい・・・



クワガタとカブトムシを見比べて大きさの違いに気付いていた。



（チョウになり逃がすとき）  
とんでいく？  
バイバイ

アオムシからサナギになりチョウになるまでを日々観察していた。「つのがでてる」「ねんねしてる」など子どもたちなりの言葉の表現がたくさん聞かれた。

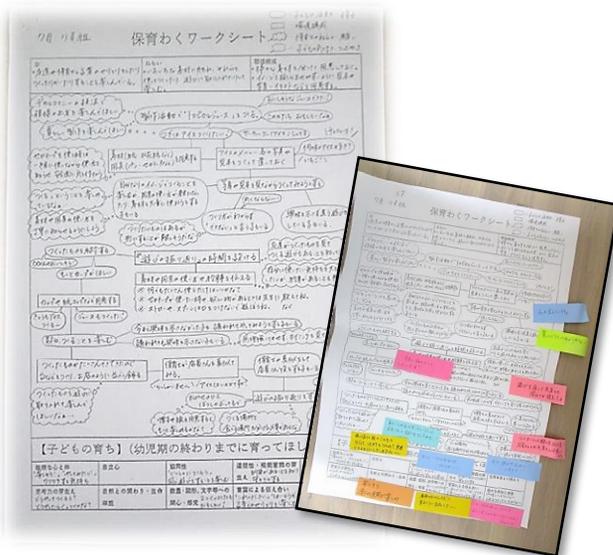
チョコキチョコキ（手でカニのハサミの真似）  
ごはんたべてる！！



- <子どもの育ち 10の姿>
- ①健康な心と体・・・「何かな?」「おもしろい」と興味関心を持ち、触れてみようとする。
  - ⑦思考力の芽生え・・・「ごはんたべてる」「どこにかくれてる?」「メダカもおかあさんしてる?」
  - ⑧数量・図形、文字等への関心・感覚・・・何匹いるのか一緒に数えてみる。大きさの違いに気付く。
  - ⑨言葉による伝え合い・・・生き物の様子を見て感じたこと、気付いたことを言葉で伝えようとする。
  - ⑩豊かな感性と表現・・・「かわいいね」「こわい・・・」「チョコキチョコキ」

### 3歳児「アイスクリーム屋さんごっこ」

夏らしい製作を楽しんでほしいというねらいからデカルコマニーの技法を取り入れ、様々な模様ができることを楽しんだ。「ジュースみたい」という子どもの思いから、デカルコマニーの作品を使ってトロピカルジュースをつかった。ジュースをつくと次は「アイスクリームをつくりたい」という声が聞かれ、つくることを楽しめるようになった。遊びの振り返りを行い、子どもたちがつくったものを紹介し合うと、それまで関心がなかった子どもが興味をもつようになり、友達から刺激を受けて「もっとこうしたい」という意欲につながったりした。つくったアイスクリームが増えてくるとそれを並べる台を用意した。するとその台をお店に見立て、ごっこ遊びが始まった。保育士も一緒に店員さんになって遊ぶと「サーティワンしてる」「カップにはいった」など経験したことがあふれ出し、「おみせのひと、ぼうしかぶってるで」など気付いたことを言葉に出し、遊びが広がっていった。



にじいろアイスにしよう！  
プチプチに色をぬるのむずかしいな・・・



園内研修で「看板があったらもっとイメージが広がるかも・・・」という意見があり、大きな紙や素材も準備して置いてみた。

いらっしゃいませ～  
これおいしいですよ  
ペイペイつかえますか



はじめは興味を示さなかった子どもお客さんが来たことで遊びに参加するようになった。

園内研修で遊びの様子を共有したことで他クラスの子どもたちも遊びに来るように。年下の友達に優しく関わる姿も見られた。

#### <子どもの育ち 10の姿>

- ①健康な心と体・・・「楽しそう！」「やってみたい」というワクワクする気持ち
- ③協同性・・・友達と一緒にあそぶことを楽しむ。
- ④道徳性・規範意識の芽生え・・・道具の使い方など、約束があることを知り守ろうとする。
- ⑤社会生活との関わり・・・経験したことを遊びに取り入れる。異年齢の友達に優しく関わろうとする。
- ⑦思考力の芽生え・・・「どうやってつくろう」「どうしたらくっつくかな」
- ⑧数量・図形・文字等への関心・感覚・・・「2つつけてもおもしろい！」
- ⑨言葉による伝え合い・・・「これください」「はいどうぞ」など言葉にやりとりを楽しむ。
- ⑩豊かな感性と表現・・・「きれい」「なにあじにしようかな～」「なにをつかってつくろうかな」

## 実践事例②

## 園内研修会

「職場のチーム力を高めること」は保育現場の要と考える。風とおしのよい職場づくりにはどうしたよいか？また人間関係が原因で休職者や離職者が多いことを受け、職員間のコミュニケーション力向上を目指し2つのワークを実施している。

### ねらい（職員用ワークの活用）

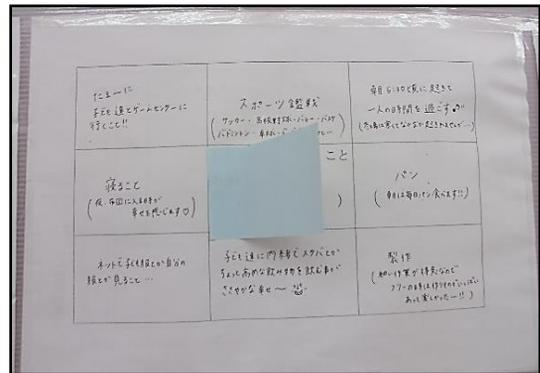
- 職員間のコミュニケーション活性化と相互理解
- チーム力の向上

### 取り組み

- 私の好きなもの・こと
- サンクスカード

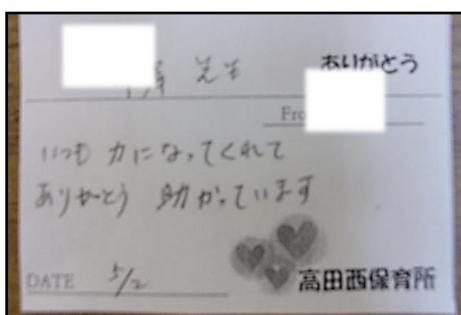
### 私の好きなこと・もの 「私はだれ？」

休憩室に全職員のシートを掲示し、シートの名前部分を付箋などで隠しておいて「私はだれ？」と題名をつけた。



### サンクスカード

感謝の気持ちをなかなか言葉で伝えられない場合、カードを利用して気持ちを伝えるようにした。カードは自分が書きたい時に書き、個人の専用封筒に入れるようにした。



職員間のコミュニケーションの大切さを感じているものの時差勤務や行事などで忙しいときは挨拶を交わすだけで終わってしまう日もある。そんなときこそ、このカードが効果的である。

# コミュニケーション力向上を目指して変化してきたこと

少しずつ人間関係が柔らかくなってきたことで、会議中も笑顔が見られるようになり、意見交流ができるようになってきた。

会議中だけではなく、会議後にお茶を飲んで一息ついているときこそ、気楽な雰囲気になり、若手保育士が質問をしたり、多様な意見が出たりしている。

このやり方でいいか悩んでて・・・

あのとき〇〇ちゃんこんなことできてたよ。



それでいいと思うよ。みんな楽しそうだったし！

担任以外の保育士が「たのしそうだね」「私も悩んでいる」と伝えると「これでいいんだ」「自分だけじゃないんだ」と安心することができ、保育士同士がつながることができた。

## わくワークシートを通して

はじめは書くことが難しかったが、子どもの姿から次の保育や活動を考えるようになった。

他クラスの様子を聞くことで、自身に置き換えて考えることができ、互いに学びにつながっている。

はじめは何を書いてもいいかわからないときもあったが、書いていくうちに保育の振り返りができるようになり、日頃から子どものつばやきをメモするようになった。

毎月の他のクラスのシートを見ることが楽しみになった。

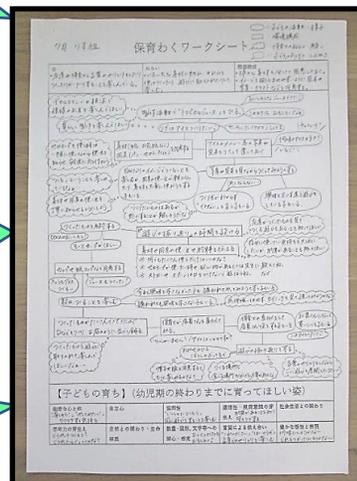


動画を見て保育の振り返り

今は限られた保育士だけの参加になっているが、交代で全ての保育士が研修に参加することで、より子どもたちの姿や大切な視点について共有できると思う。

子どものつばやきや行動を細かくひろいながら、主体的な遊びにつなげることがまだまだできていない部分があると感じている。

気付いたことや自分が行った援助や言葉かけを文字にすることで、その時には気付かなかったことや課題が見えてきやすい。



## おわりに

### <「私の好きなもの・こと」を通して>

■休憩時間にお茶を飲みながらシートを見て職員同士が共通点を見つけたり「これ〇〇先生かなあ？」と予想したり「どんな映画を見ましたか？」など質問をしたりしてなごやかに会話をする姿が見られた。

■若手職員の緊張をほぐし、会話の輪の中に入るきっかけとなり、笑顔も増えた。

■「自分の好きなもの・ことを考えることがあまりなかったが自分を知る良いきっかけになった。あまり話したことのない職員とも共通の好きなものがあり、コミュニケーションが取れ、会話ができ親しみがもてた」などの感想があり、人間関係を円滑にするのに効果がみられた。

### <サンクスカードを通して>

#### ■きっかけ

サンクスカードをするきっかけはある企業が社内で「ありがとう」の気持ちを伝えあっていくうちに、社内の雰囲気良くなってきて、はじめはなかなか取り組みに抵抗があったが、やっていくうちに感謝の気持ちを伝えることによって温かい気持ちになった、小さなことも気持ちを伝えるツールとなるのでやってみてよかった。などの意見がでたとのこと。それらを踏まえて保育所内で実施をし、職員間のコミュニケーション力向上を目指し実施している。

#### ■やってみて

「ありがとうという言葉には人を温かい気持ちにさせる」

「あのときこう思ってくれていたんだと知り、ほっこりした気持ちになった」

「ありがとうを伝えそびれた時にカードを使って伝えることができる」

「書いてもらうことによって改めて感謝されると凄く嬉しい」

#### ■ある若手保育士の場合

自己発揮がしづらく、クラスの先生との意思疎通がうまくいかず悩んでいた。自分で頑張らないといけないと気負っているのか、先輩の助言が耳に入らず空回りする日々が続いた。そのうちに他クラスの先生とも距離を置いているように見えだしたが、サンクスカードで自分のことを認めてもらえたことがきっかけになり、表情もやわらかくなり笑顔も増えてきた。また年度が変わり新たなクラスになり仕事への意欲も増したのだろうか、自分から積極的にアイデアを提案したり意見を出したり、看護師などとも連携を取ろうとするようになってきた。

■書く時間がとりにくいという課題もあるが無理のないように続けていけたらと考えている。